

青野原駐屯地創立50周年記念行事の成功に思いを寄せて

今年で創立から50年となる青野原駐屯地の記念行事が5月31日（日）に行われ、隊友会東播支部石田支部長以下多数の会員が参加して祝福しておられました。

創立から半世紀を迎えたことを祝って、石川県の航空自衛隊小松基地から2機のF15戦闘機の祝賀飛行が計画されており、朝9時前から青野原駐屯地周辺の道路は大渋滞となり、列をなした車両が動かない状態となり、10時の時点で来場予定の来賓の多くが到着されていないため、式典開始を30分遅らせる事態が発生しました。

後日、総来場者数は約8千人超と発表があり、今までで一番多かった記念行事来場者数の2倍以上の人数であり、各駐車場地域を往復する送迎バスについても渋滞混雑で役に立たない状態であったと聞いています。

しかし、30分遅れではあったものの、式典、観閲行進、F15戦闘機2機による祝賀飛行、中部方面音楽隊による音楽演奏、訓練展示、格闘演武が計画通りに行われました。その間駐屯地内では自衛隊車両による試乗、子供広場でのエア遊具による遊び場設置、キッチンカーによる食べ物販売等が行われており、多くの来場者が列をなして順番を待っておられました。また、駐屯地売店でのお土産購入を予定しておられた来場者についても長い列を作って順番待ちの状態でありました。

式典開始前の正門風景



観閲式 準備完了



特にF15戦闘機の祝賀飛行については、記念行事会場通過時に機体を左右に揺らせながら飛行していたのが印象的でした。後にその動作は「感謝の気持ちを込めた飛行」であると教えられ、一つは阪神淡路・東日本・能登半島における大震災災害派遣・ボランティア等に対する感謝の気持ち、2つ目は来場された多くのお客様に対する感謝の気持ちが伝えられたのではと勝手に解釈しました。

記念式典や祝賀会食会場において、駐屯地司令は50年間駐屯地を支えて頂いた地域の皆様・来場された多くの方々のおかげで本日を迎えることができたことに感謝の意を述べておられました。

また、お話を頂く来賓の方々からは、日本を取り巻く各国の状況を考えると非常に厳しい時代を迎えている。隊員の皆様の労に対し心から感謝と敬意の気持ちを述べておられました。

観閲官 式辞



巡 閲



観閲行進



F15による祝賀飛行



50周年はまだまだ通過点であり、ここから更に青野原駐屯地として伝統を培って遅しく、地域をはじめ国民に信頼される駐屯地・隊員として躍進していただくために、我々隊友会についても、少しでも青野原駐屯地及び駐屯地隊員に貢献できる行事を続けて行きたい。そして、55周年、60周年と流れゆく年月の中で更なる繋がりを大切にして心からお祝いできる気持ちを持ち続けていくことが大切であると再認識することが出来ました。

最後に、来賓来場者・同伴者には、来場の感謝の気持ちを込めた記念品が配布されました。この記念品の一部は支部会員数名が推進役として作成に協力し、駐屯地に貢献していました。

参加された一般客を含め、来賓・同伴者の皆様が行事に大変満足されている姿を見て、50周年記念行事の成功を肌で感じる事が出来ました。

装備品展示実施中



祝賀会食



子供広場大盛況



キッチンカーコーナー



最近、駐屯地、基地等が行う記念行事（一般開放）を中止や規模縮小するところが増えていると聞いています。この背景には、深刻な人手不足により開催が困難な状態や警戒・監視などの任務が増加している背景から日常の訓練を優先するという背景が考えられます。また記念行事準備に伴う負担として、他部隊の支援、式典までの準備期間の労力等も挙げられています。

青野原駐屯地も人手不足、今年発生した交通の便が悪い駐屯地として来場駐車場・送迎バス等の運用に関する問題の他に、駐屯地隊舎の建替として、今年の記念行事開催場所である駐車地域が新隊舎建設予定地域ではとの情報を入手し、今後青野原駐屯地においても各種事情が重なり記念行事を行わない決断をするのではないかと心配しています。

各駐屯地の記念行事の役割として、今後自衛隊を希望する小さなお子様に記念行事を見せることは最高の募集広報をアピールする場所であると思っています。また、地域に根付いた駐屯地がどのような活動をしているのかを駐屯地近傍の市町村にアピールする場所でもあると思います。

微力ながら我々隊友会としても何ができるのか考えつつ自衛隊・隊員・募集広報・地域との一体化に貢献していくことの大切さが重要であると実感しています。

※一部の写真を第8高射特科群から提供受け

事務局長 細貝 寛徳